

構造別比較表

構造		平面案	地下案	高架案
案の概要図				
評価項目		評価内容	評価内容	評価内容
玉川上水への影響	史跡の改変	橋梁設置により法面等史跡に影響が生じる (約300m <sup>2</sup> )	人道橋設置により法面等史跡に影響が生じる (約80m <sup>2</sup> )	高架橋設置により法面等史跡に影響が生じる (約200m <sup>2</sup> )
	史跡の改良 (保存整備)	玉川上水横断工事の施工に合わせて史跡の改良 (保存整備) が必要 (約500m <sup>2</sup> )	玉川上水横断工事の施工に合わせて史跡の改良 (保存整備) が必要 (約600m <sup>2</sup> )	玉川上水横断工事の施工に合わせて史跡の改良 (保存整備) が必要 (約500m <sup>2</sup> )
	既存樹木への影響	橋梁の設置により、交差部分の樹木に影響が生じる (約300m <sup>2</sup> )	薬液注入、人道橋の施工により、遊歩道の樹木に影響が生じる (約300m <sup>2</sup> )	高架橋の設置により、交差部分の樹木に影響が生じる (約200m <sup>2</sup> )
玉川上水周辺への影響	雑木林への影響	雑木林周辺を平面で通過するため、雑木林に影響が生じる (約7,200m <sup>2</sup> )	雑木林周辺は開削工事となるため、雑木林に影響が生じる (約7,200m <sup>2</sup> )	雑木林周辺を高架橋で通過するため、雑木林に影響が生じる (約7,200m <sup>2</sup> )
	新堀用水への影響	・橋梁設置時の山留・掘削による影響 ・将来的にはボックス化	・薬液注入施工時に水路の切廻しが必要 ・人道橋設置時の山留・掘削による影響 ・将来的にはボックス化	現状のまま
遊歩道への影響	遊歩道の連続性	橋上の横断歩道により連続性を確保	現状のままであり連続性を確保	現状のままであり連続性を確保
沿道アクセス	日常生活の利便性	沿道からのアクセスは容易	本線と高低差があるため、側道での接続となり (延長: 約660m)、アクセスに支障のある方向が生じる。	本線と高低差があるため、側道での接続となり (延長: 約400m)、アクセスに支障のある方向が生じる。
	緊急時の小平中央公園への車両アクセス	直接的なアクセスが可能	迂回が余儀なくされる	迂回が余儀なくされる
環境	周辺環境への排気ガスの影響	大きな影響はない	坑口付近の排気ガス濃度は他案に比べて高くなる (延長: 約330m)	大きな影響はない
	日影	影響なし	影響なし	日影が発生
	景観への影響	大きな影響はない	大きな影響はない	高架構造による圧迫感等を感じやすい
施工・維持管理	支障物件の移設	特になし	小平中央公園へのアクセス路に埋設されている下水道管の移設が必要	特になし
	工事規模	構造物は玉川上水横断部の橋梁のみ	・大規模な地下構造物の構築が必要 ・玉川上水横断部は非開削工法とするため、補助工法が必要	大規模な高架構造物の構築が必要
	維持管理費	3案の中で最も安価	照明設備や道路情報設備が必要	高架橋としての維持管理が必要
経済性	経済性	3案の中で最も安価	3案の中で最も高価	地下案よりは安価だが、比較的高価